HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター　第22号
Description	特集 受け口付き土器
Issue Date	2015-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60140
Type	journal
File Information	newsletter22.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第22号　2015年9月

北海道大学 Hokkaido University
Archaeological Research Center News Letter

埋蔵文化財調査センター ニュースレター

特集　受け口付き土器

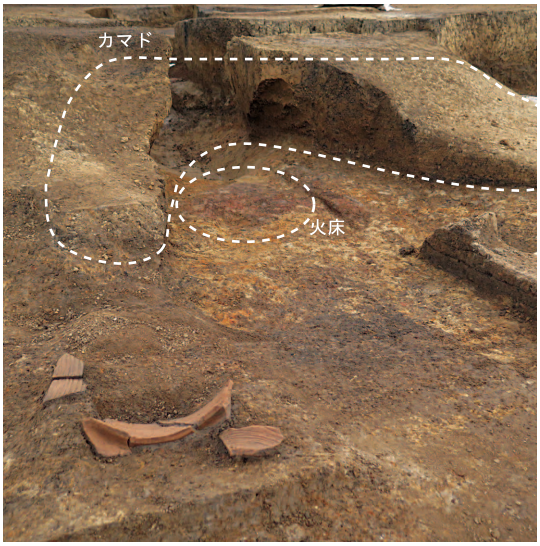
遺跡から出土する土器は、表面に施された縄文などの文様の他に、形（器形）によって様々な種類（形式）に分類されます。擦文文化の土器には甕形や坏形などと呼称される形のものがありますが、その他に既存の分類にはあてはまらない特異な形のものもまれに発見されます。2014 年に発掘調査した農学部実験実習棟地点では、擦文文化の竪穴住居址から甕形の口縁部内側に蓋を受けるための鍔（つば）をぐるりと一周貼り付けたような形の土器が発見されました。これは「受け口付き土器」と呼ばれている擦文土器です。

本号では、北大構内の遺跡や周辺から出土したこの「受け口付き土器」を特集します。K39 遺跡では、これまでに 5 個体分の受け口付き土器が発見されています。



▲ 受け口付き土器の出土状況

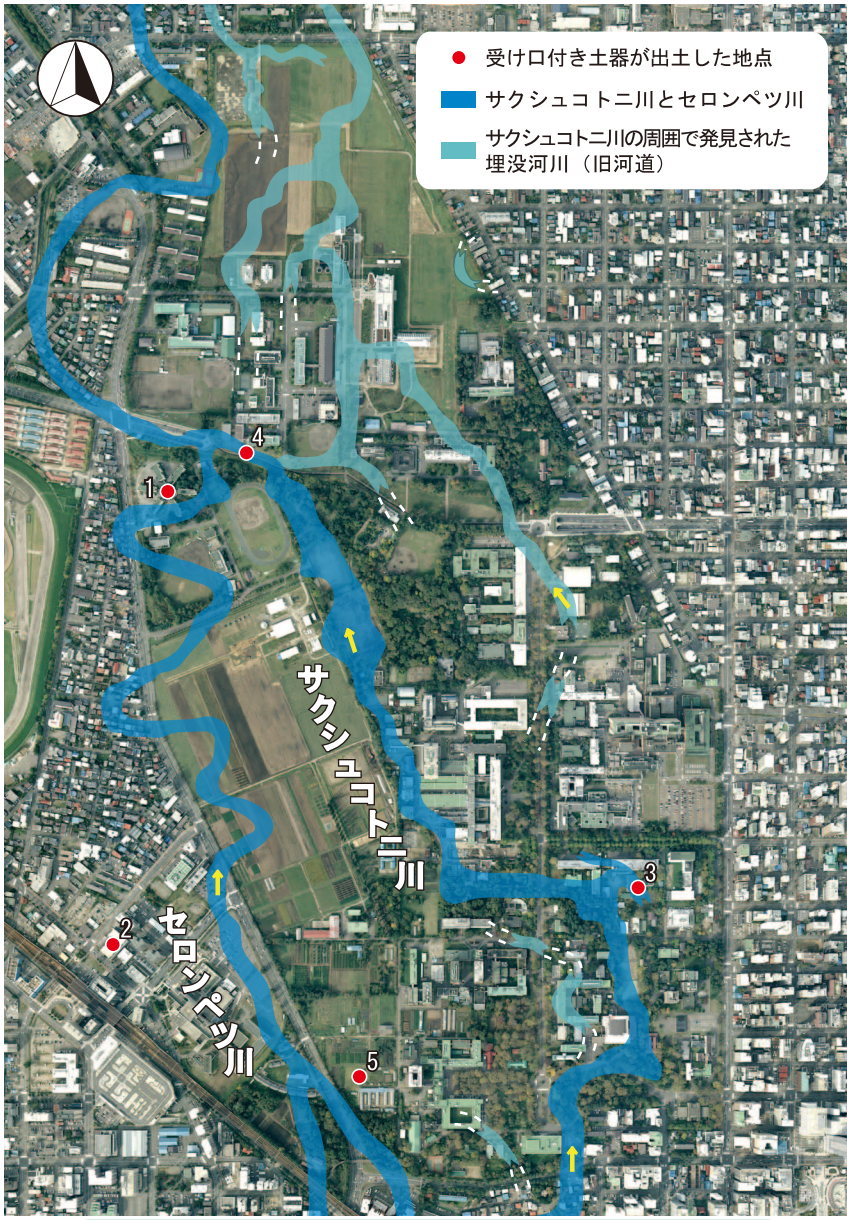
写真は、受け口付き土器の鍔（受け口部分）。1cm程度の鍔が土器の内面に廻るように貼り付けられています（破線内）。周辺にある土器は、同一個体の口縁部破片で、外面に横方向へ伸びる沈線文が多重にひかれています。



▲ 受け口付き土器とカマドの位置関係（北側から撮影）

受け口付き土器は竪穴住居址のカマド前方、床面付近から出土しました。また、カマド内部からも接合する破片が見つかるなど、カマドとの関連性を窺わせます。

受け口付き土器が発見された地点





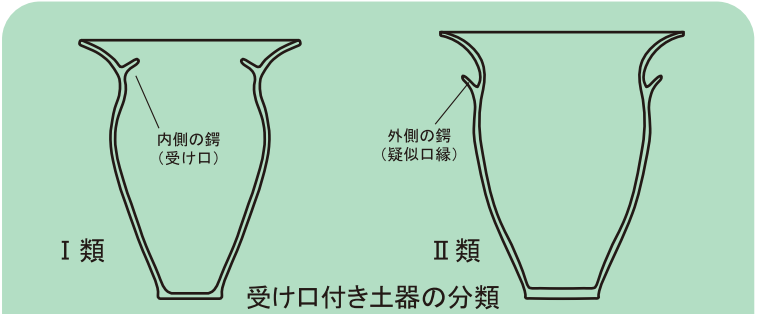
1　恵迪寮地点で出土した土器

受け口部分（鍔）は立ち上がるように作られ外側の口縁部より高くなる。口径23cm、受け口の径は20cm。器高は20cm。（Ⅰ類とⅡ類の中間形態）



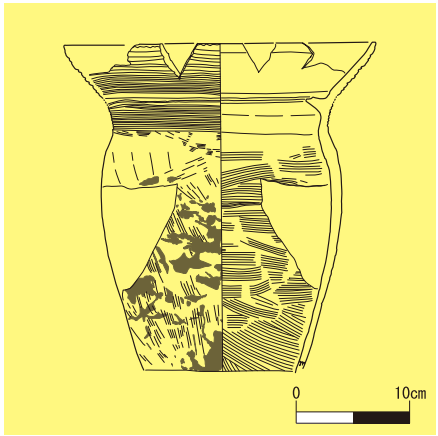
2　長谷工地点で出土した土器

土器を入れ子にしたような外観を持つ二重口縁の土器。口径は33cm、疑似口縁部の径は25cm。器高は38cm。（Ⅱ類）



受け口付き土器の分類

土器の口縁部の内側に鍔のめぐるものをⅠ類、外側に鍔のめぐるものをⅡ類にします。Ⅱ類は「二重口縁」と呼ばれることのある土器ですが、本特集ではこれも受け口付き土器の仲間として取り扱います。



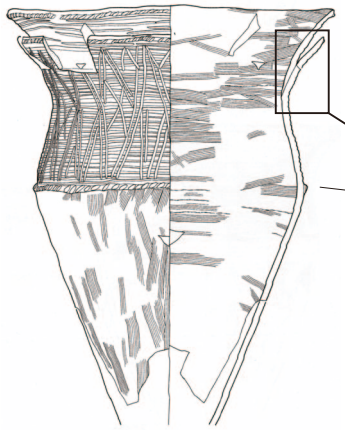
5　農学部実験実習棟地点で出土した土器

表面に土と煤の付着が見られる（灰色部分）。復元された受け口の径は推定16cm。（Ⅰ類）

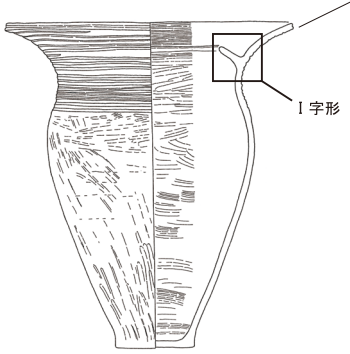
北大構内と付近の遺跡から出土した受け口付き土器

	地点名称	出土位置	出土状況	残存状態	時期	報告書
1	K39遺跡　恵迪寮地点	炭化物集中、焼土	竪穴住居址煙道付近の焼土やカマドの炭や灰等を遺棄した炭化物マウンドから出土。	ほぼ完形	擦文文化（約9C後～10C前）	『サクシュコトニ川遺跡』
2	K39遺跡　長谷工地点	包含層	白頭山苫小牧火山灰（B-Tm）を含む包含層から出土。周辺に屋外炉を複数検出する。	ほぼ完形	擦文文化（約9C後～10C前）	『K39遺跡　長谷工地点』（札幌市教育委員会）
3	K39遺跡　薬学部校舎改修（プレハブ）工事予定地	包含層	試掘調査のトレンチから出土。	破片	擦文文化（約8C中～8C後）	『北大構内の遺跡 11 平成 7･8･9･10 年度』
4	K39遺跡　エルムトンネル地点	包含層	白頭山苫小牧火山灰（B-Tm）より上層の包含層から出土。周辺に屋外炉を複数検出する。	底部なし	擦文文化（約10C中～10C後）	『K39遺跡　第6次調査』（札幌市教育委員会）
5	K39遺跡　農学部実験実習棟地点	竪穴住居址、炭化物集中	竪穴住居址のカマドとその周辺やカマドの炭や灰等を遺棄した炭化物集中から出土。	底部なし	擦文文化（約9C前～9C中）	未報告

北海道内での受け口付き土器の出土例



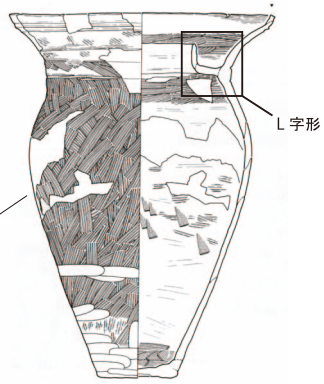
K39遺跡エルムトンネル地点（左図の4）
　包含層から出土。擦文文化（約10C中～10C後）。口径は32cm、疑似口縁部の径は30cm。（Ⅱ類）



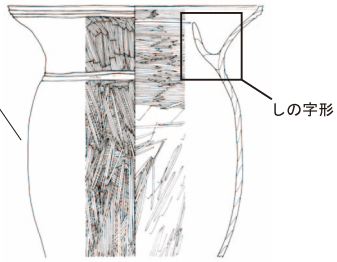
恵庭市カリンバ3遺跡
　竪穴住居址から出土。擦文文化（約9C前～9C中）。口径は32cm、受け口の径は15cm、高さ32cm。（Ⅰ類）



▲受け口付き土器の出土した遺跡の分布



千歳市キウス9遺跡
　包含層から出土。擦文文化（約8C前）。口径は26cm、受け口の径は10cm、高さ36cm。（Ⅰ類）



千歳市丸子山遺跡
　竪穴住居址から出土。擦文文化（約8C前）。口径は25cm、受け口の径は推定10cm。（Ⅰ類）

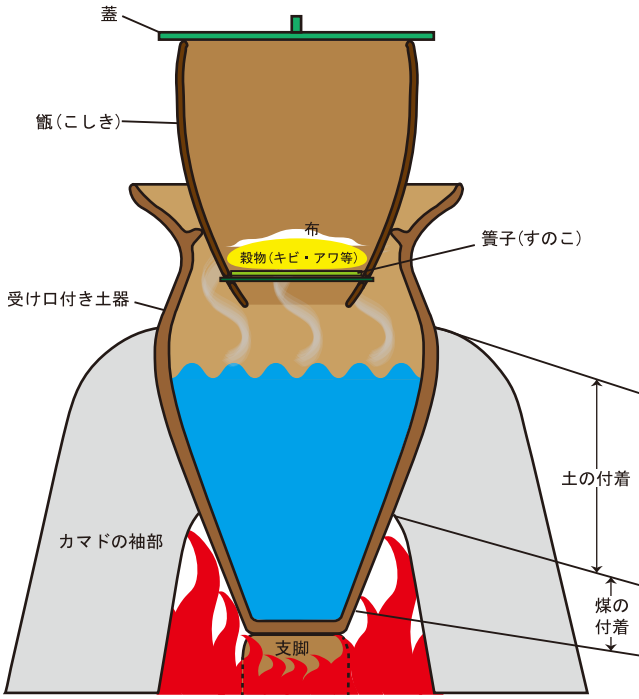
0　10cm
土器の縮尺

受け口付き土器は、札幌市域から千歳・恵庭市域にかけて、約8世紀前半から10世紀後半の遺跡で発見されています。Ⅰ類の鍔の断面形には「L字形」や「しの字形」、「I字形」のような変化があります。Ⅰ類の内側に付いた鍔の形の違いとⅡ類の外側の鍔（擬似口縁部）との間にはどのような関係があるのでしょうか。

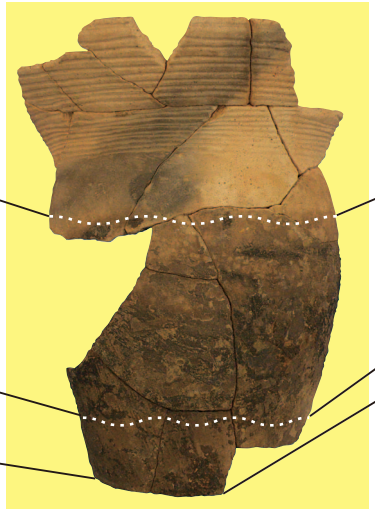
図の出展 恵庭市教育委員会　2003 『カリンバ３遺跡（1）』北海道恵庭市発掘調査報告書、札幌市教育委員会　2001 『K39 遺跡第６次調査　第３分冊』札幌市埋蔵文化財調査報告書 65、千歳市教育委員会　1994 『丸子山遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書ⅩⅨ、（財）北海道埋蔵文化財センター　2007 『千歳市キウス９遺跡』北埋報調 252.

受け口付き土器のカマドでの使用

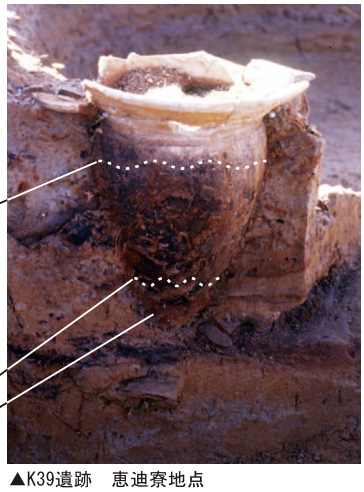
農学部実験実習棟地点の受け口付き土器（中央写真）には、胴部の中ほどに粘土が付着し、その下側には煤が付いていました。カマドに土器が固定されていたことがわかります。カマドに取り付けられた受け口付き土器はどのように使用されたのでしょうか。受け口付き土器（Ⅰ類）の内側に底の空いた土器（甑、こしき）をもう一つ重ねて、そこに簀子（すのこ）を落とし込むと蒸し器になります。



▲カマドに設置し使用した場合の想定図



▲K39遺跡　農学部実験実習棟地点



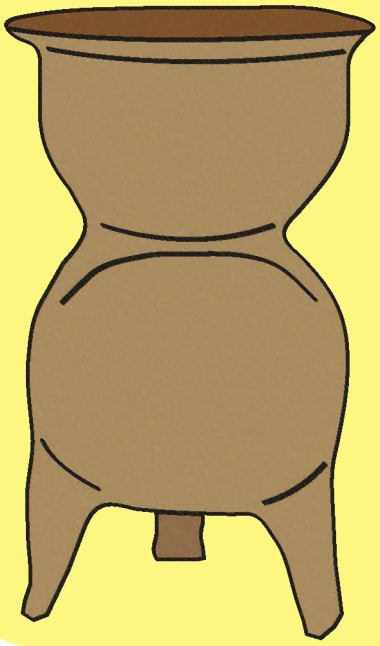
▲K39遺跡　恵迪寮地点
　カマドに取り付けられた状態で検出した土器。同様に土や煤の付着が認められます。

器形の変化は機能の変化(?)

では、Ⅰ類の受け口付き土器に甑をはめ込んで載せた形を一つの形として作るとどうなるでしょうか。その形こそがⅡ類の受け口付き土器に他なりません。はめ込まれて載せられた甑は形骸化してしまったのでしょうか。擦文土器における受け口付き土器や甑形土器の発見例の少なさは、「蒸す」調理法は広く受け入れられず、「煮る」調理法が優勢だったことを示しているかもしれません。

今から 8,000 年前の中国の遺跡からは甑とそれを乗せるための鬲（れき）と呼ばれる 3 本足の煮沸具が出土しています。後の時代には、この 2 つを合体させた甗（げん）という蒸し器が作られるようになります。

作られた地域も時代も異なる道具ですが、2 つのものを 1 つに組み合わせる共通の行為が興味深く感じられます。



甗
げん

上部の甑と下部の鬲が中央のくびれ部分でつながり一体となった調理具。鬲の3本足の部分は、内部が空洞となっており、水を貯めることができる。土製の他、祭祀用に青銅製のものも作成された。

第 13 回遺跡トレイルウォークの様子

去る7月25日、第13回遺跡トレイルウォークを開催いたしました。『北大式土器を訪ねて』のテーマの下、65名の方々にご参加いただきました。歩くにはちょうどよい天気となり、センター員への質問や雑談をしながらの賑やかな散策となりました。また、立ち寄った調査センターでは、これまで一般には公開していない土器や石器を間近で観察することができ、皆さん興味深げにじっくりと眺めていらっしゃいました。



▲調査センターで北大式土器を学ぶ

第 14 回遺跡トレイルウォークの開催

今年2回目のトレイルウォークを開催いたします。テーマは『メム周辺の遺跡をめぐる』。メムとはアイヌ語で水が湧き出る所を意味し、偕楽園や植物園に名残をとどめています。今回はその周辺にある遺跡をセンター員の解説とともにめぐり、現在調査中の発掘現場も見学いたします。

日時：2015年10月3日(土) 14:00～16:00(開場13:30)
集合場所：北海道大学学術交流会館１F　小講堂
申し込み締め切り：9月30日(水)

申し込み方法は、お電話・はがき・FAX・Eメールのいずれかにより下記の宛先まで、氏名・住所・電話番号をご連絡ください。また、ご一緒に参加される方がいらっしゃる場合は、その方のお名前もお知らせください。

【企画展】道内出土の受け口付き土器

当センター展示室では、本ニュースレターとの連動企画として、北大キャンパスや道内各地で出土した受け口付き土器を集めた企画展を開催します。開催予定期間は、2015年10月5日から12月11日までとなります。この機会にぜひご覧ください。

編　集　後　記

本特集の作成につきまして、ご教示、ご高配をいただいた、中田裕香氏(北海道埋蔵文化財センター)、長町章弘氏(恵庭市教育委員会)、柏木大延氏(札幌市埋蔵文化財センター)に、心よりお礼申し上げます。
(本山)

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター　第22号
発行　：北海道大学埋蔵文化財調査センター　2015年9月25日
〒060-0811　札幌市北区北11条西7丁目
電話　：011-706-2671　FAX：011-706-2094
e-mail：hokudaimaibun@gmail.com
URL　：http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~q16697/maibun/index.html
印刷　：柏陽印刷株式会社